

1. はじめに

平成28年度より、長野県全公立高等学校で地域に根差した探究学習の総称として「信州学」が導入された。本校では、総合的な学習の時間・教科情報の授業などを利用し、1学年全体で探究学習に取り組んだ。その成果として、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2016」において、長野県の伝統食である昆虫食について探究した生徒2名が地方創生担当大臣賞を受賞するに至った。

2. 実践の概要

2.1 本校における信州学の概要

本校では、信州学を単に「信州について」だけでなく、「信州において」、「信州から」の広い視点で「信州」をとらえ、生徒個々に自ら住む地域から県全体、そして世界へとローカルからグローバルの様々な視点を持たせて1年間取り組みを行った（表1）。

①課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定のための講演会 ・図書館利用方法の講義 ・テーマ発表会
②情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・RESASを用いた授業 ・松本市中央図書館開放（H28）
③整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・教科情報での学習 ・ゼミ活動
④まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス発表会 ・学年発表会
その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・独自テキスト制作 ・県会議員との懇談（H28）

表1 松本県ケ丘高等学校の信州学の主な取り組み

はじめに探究学習の意義を講義し、年間スケジュールをテキストにして生徒に配布。夏期休業を利用し、自らの興味・関心からテーマ設定を促した。10月以降は各々の課題を深めることを重点に、定期的に通信を発行。12月以降はこれまで集めた情報を整理・分析する授業を情報の授業内で全5回行った。

最終的にはパワーポイントにまとめ、各クラス単位で全員が発表を行い、クラス代表者が学年発表会でプレゼンを行った。

2.2 情報の収集におけるRESASの活用

自らの探究学習をさらに深めるために、教科情報の「問題解決」の分野で、RESASを活用した。

時	学習活動
1	RESASの利用方法
2	自らの探究における「課題の設定」
3	「課題」に対して情報の収集・整理分析①
4	「課題」に対して情報の収集・整理分析②
5	自分の提案を考えよう：「アイデアの立案」
6	提案書を完成させ、発表しよう

表2 RESASを活用した教科情報 単元展開

生徒は住んでいる地域の理解があり、地域が抱える課題に関してある程度理解がある。自分が理解していた地域の課題に対する検証をRESASで行うことで、自分が考えていたことが課題になりうるのか、そうでないのかを判断することができる。RESASのデータを分析することで未来予測も可能となり、課題の設定に非常に有効であった。

考察には、データの信ぴょう性、複数の情報源から情報を得ているのかなどのチェックリストを元に、自分の考えた考察をブラッシュアップする作業を行った。プレゼンテーション作成の際には、課題解決案の提案を補完するため、RESASのデータを利用し、プレゼンをよりよいものに仕上げた。

3 成果と課題

信州学を通して、生徒は主体的に学ぶ姿勢の向上に一定の効果がアンケート結果から明らかとなった。

今後は、探究担当教諭と学校司書等の教員が協働して探究学習を展開するプログラム作成が必要である。情報の収集の方法の講義は総合的な学習の時間の他に、教科情報、国語科の授業等で重複、不足した。

次期学習指導要領では探究学習が重視され、より一層情報収集のためのRESASの役割が大きくなることが予想される。今後も継続して活動を行っていく。

参考文献等

- ・文部科学省(2013.7) 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』
- ・長野県教育委員会(2016) 『わたしたちの信州学』
- ・中谷幸裕(2017) 地方創生☆RESASフォーラム in 関西 発表資料 <https://forum.resas-portal.go.jp/2017kansai/>